

ごみ問題

問 計画を見直すための委員会は

答 安易に外部組織に委ねられない



渡辺俊夫議員

【ごみ処理広域化

計画の見直し】

問

飯森候補地の断念を受け、今こそ、用地選定からではなく、ごみ処理広域化計画そのものから見直すための委員会こそ、専門家や住民を交えて早急に立ち上げるべきであると考えますが。

村長

広域化そのものが全否定されたものとは思っていません。基本計画と施設計画の見直しがなされ、それを反映して、次の候補地がピックアップされるものと考えています。住民の皆様のご意見を聞く機会は当然設け



ごみ処理を考える住民懇談会 (6月25日)

ます。行政と議会が、ともにそれぞれの役割を認識し、真剣に取り組み、間違いのない結論を導き出すべきものであり、それを放棄し、安易に外部組織に委ねてよいものではないと考えています。

問

住民や専門家を交えた用地選定委員会はどのように組織しますか。また、飯森を断念したということは、残り17から選び直すということなのかですか。

村長

二の轍を踏まないように慎重且つ迅速な対応をしていくというのが、これからの広域連合の方針と理解しています。17箇所も当然想定に入れ、また新たな検討を始めるという可能性も充分にありうると考えています。住民や専門家の皆さんが考えていた中で、「こういう場所もあるのではないか」というようなことも当然出てくるのではないかとこの想定のもとで申し上げます。

問

3市村で取り交わされた協定は見直さなければならず、また、計画策定

時の基礎データを最新のものに入れ替えて作り直すということは、基本計画そのものから見直しを始めるければならないのではないですか。

村長

基本計画そのものが否定されているわけではなく、村の総合計画の中でも広域化が基本の方針です。これをベースとしながら組み立てをしていくが当然であると思っています。また、大町市の要望が当時とは変わってきていますので、協定書の見直しについての意見は出てくるものと考えています。

【公約とした観光産業

活性化の進捗状況】

問

就任以来3年を経たが。

村長

昨年、局長のもと、旧配宿業務を見直し、白馬村観光全体の営業推進業務、宣伝業務へと業務内容、組織、方法等を転換しました。